

松岡恕庵本草学 の研究

2012年4月刊行

A5判・400頁・カラー口絵4頁
定価 7,875円(税込) ISBN978-4-7842-1617-8

太田由佳 著

江戸時代前～中期に活躍した京都の本草家松岡恕庵(1668-1764)。その学問の全体像に迫る最初の研究書。巻末に詳細な恕庵著作・関連資料目録を付す。

【松岡恕庵】名は玄達、字は成章、別号に怡顔斎・埴鈴翁など。山崎闇斎に神道・儒学を学んだのち、伊藤仁斎の儒学塾や浅井周璞の医学塾にも入門。稲(稻生)若水のもとで本草研究に研鑽を積み、当代きっての本草学者となる。京都で私塾を開き生計を立てた。門下に小野蘭山などを輩出。

本文編目次

第1章 生涯と学問

- 一 生涯 山崎闇斎一儒学と神道/伊藤仁斎の古義堂、浅井周璞の養志堂/本草の師 稲若水/若水の後継者として/本草学の第一人者へ/伊賀名張への出仕/没後
- 二 活動年譜 10代後半～20代(貞享頃～元禄10年)/30代(元禄10～宝永3年)/40代(宝永4～享保2年)/50代(享保3～11年)/60代(享保12～元文元年)/70代(元文2～延享3年)

第2章 恕庵本草学の特徴

- 一 儒者の本草学—医家浅井家との関わりから 浅井凶南「用薬須知後編序」(1758)/凶南の学問観/序文の真意—弁護と礼賛/医家の本草 儒家の多識
- 二 教養としての本草学 本草知識の共有/『蘭品』の編纂/『歌仙海苔』から『苔品』へ/江村復所『聚芳帯図左編』
- 三 他者との連帯 諸方の風俗への関心/同志の参集—本草会

第3章 学問観

- 一 本草の学問的意義—「格物」と「正名」 「題重訂本草綱目後」(1713)/「用薬須知自叙」(1712)
- 二 理気説 無極而太極/理気妙合
- 三 心神説 幸魂と奇魂—人の心の二つの動き/資料/大己貴神の幸魂奇魂/闇斎の心神説/恕庵の「心神」説

第4章 没後—門人たち

- 一 嗣子 松岡定庵
- 二 門人 小野蘭山
- 三 京都以外の門人関係—大坂・江戸



『本草原始』「翻白草」
(武田科学振興財団 杏雨書屋蔵)

おおた・ゆか...1982年福岡県生まれ。2011年3月京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士(人間・環境学)。日本学術振興会特別研究員DC(2009-2010年度)。同特別研究員PD(2012年度より)。論文に「松岡恕庵本草学の書誌的調査研究」(『杏雨』14号、2010年)、「松岡恕庵から小野蘭山へ—その歴史的転化の一端」(『小野蘭山』八坂書房、2010年)。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-751-1781 fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	松岡恕庵本草学の研究		本体7,500円(税別) ISBN978-4-7842-1617-8	
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
					書店番線印

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

儒学・博物学・蘭学・文芸など、独自性にみちた文化的発展をみせ、近代化に多大な影響を与えた日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。
▶A5判・582頁／定価8,925円 ISBN978-4-7842-1580-5

九州の蘭学 越境と交流

W.ミヒエル・鳥井裕美子・川島真人編

近世、西洋への唯一の窓口であった長崎及び九州各地で、人々が在来の学術とは異質な西洋近代科学にどう向き合い、学び取って、世のため人のために役立てたのか、あるいは来日した西洋人が、知的交流や技術移転にどれほど貢献したのかを、最新の研究成果に基づき、彼らの業績と足跡を通して明らかにする。
▶46判・380頁／定価2,625円 ISBN978-4-7842-1410-5

高良斎とその時代

福島義一著

寛政11年(1799)徳島に生まれ、本草学を乾純水、医学を養父高錦国に、長崎では吉雄権之助、シーボルトに西洋医学を学び、のち大坂で眼科を開業して名声を博した高良斎の生涯と業績を纏める。高良斎著訳書の研究、研究文献、年表を収めた基本図書。シーボルトにも新たな光が当てられる。
▶A5判・270頁／定価3,990円 ISBN4-7842-0906-9

大槻玄沢の研究

洋学史研究会編

江戸後期、蘭学の発達と普及にもっとも貢献した蘭学の巨匠大槻玄沢。一関藩医の子として生まれ、杉田玄白・前野良沢に学び、自らも芝蘭堂を開き蘭学教育にあたった玄沢の医学・本草学・地理学など、広範にわたる研究活動を、各分野のエキスパートが論じる初の総合研究書。
▶A5判・390頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0623-X

※喫煙伝来史の研究

鈴木達也著

喫煙が伝来して400年余となるが、その経緯について不明部分も多く、俗説や風説が流布している。本書では、キリシタン史・対外交渉史・欧州の伝来史まで幅広い史料の探索によって、タバコ・キセル・種子などの具体的な伝来を明かす。在外の関係図版多数収録。
▶A5判・360頁／定価5,775円 ISBN4-7842-1018-0

※牧野標本館所蔵の

加藤信重著

シーボルトコレクション

ソビエトのコマロフ植物研究所から東京都立大学牧野標本館に渡ったシーボルトの植物標本を約10年間にわたって精査してきた成果。標本に残されているメモや添付図から採集者や採集地の特定につとめ、江戸時代の博物学の実態を知る上でも貴重な報告。図版多数掲載。
▶A5判・300頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1165-9

茶の医薬史 中国と日本

岩間真知子著

日本や中国の歴代医薬書の中には茶の記事があり、茶の効能や処方のほか異名・産地・製法も記され、古辞書や『茶経』『茶譜』など茶書の抜粋も収録されており、非常に貴重な史料である。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその歴史の変遷を明らかにする。
▶A5判・528頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1463-1

※近世儒者の思想挑戦

本山幸彦著

林羅山、熊沢蕃山、貝原益軒、荻生徂徠、横井小楠ら近世の思想家たちが解決の道を目指して取り組んだ時代の課題が、いかなる歴史状況のもとで発生し、いかなる問題を抱くものであったのかを提示することで、それぞれの思想家たちが意図したことを明確にしようとする日本思想史の基本書。
▶A5判・314頁／定価7,875円 ISBN4-7842-1304-X

東アジアの本草と博物学の世界(全2冊)

山田慶兒編

18世紀、西洋の大航海時代と植民政策、日本の幕府・諸藩の殖産政策と外国貿易により、日本で遭遇した博物学と本草学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響をも含めて、多角的に考察した21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究。
上巻▶A5判・364頁／定価7,875円 ISBN4-7842-0883-6
下巻▶A5判・376頁／定価7,875円 ISBN4-7842-0885-2

本草学と洋学 小野蘭山学統の研究

遠藤正治著

東アジアの伝統的科学の一つであり、博物学的色彩の強い日本本草学。その頂点である小野蘭山の学統を対象に洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草学研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明らかにする。
▶A5判・440頁／定価7,560円 ISBN4-7842-1150-0

洋学史論考

佐藤昌介著

思文閣史学叢書

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学を受容と発展を解明し、あわせて近代化に果した軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる著者最新の論集。
▶A5判・410頁／定価8,190円 ISBN4-7842-0782-1

磐水存響(乾・坤)

大槻茂雄編

本書(ばんすいぞんきょう)は大正元年(1912)に、大槻玄沢の多方面にわたる業績から医学書を省き「蘭学を受容・導入」に関するものを集成して玄沢の曾孫大槻茂雄が編集・発行した乾・坤2巻の復刻。
▶A5判・総1010頁／定価19,950円 ISBN4-7842-0624-8

シーボルトが蒐集したシダ標本

加藤信重著

オランダ国立植物学標本館ライデン大学分館に所蔵されている、シーボルトコレクションの約1,000点のシダ標本を、20年にわたり調査した成果を豊富な図版(カラー口絵14点・モノクロ600点)とともにまとめる。標本642点・1009カットのカラー画像を収録したDVDを付録として付す。
▶A5判・388頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1550-8

シーボルトと鎖国・開国日本

宮崎道生著

1996年はシーボルト生誕200年にあたり「東西文化融合の架橋者」としての業績が再評価された。本書は、永年のシーボルト・コレクション(日本文化の組織的な蒐集品)の実地調査によってえられた未公開・新発見の史料を駆使してシーボルトの本質と実態に迫り、その本領と今日的意義を近世史学の泰斗が解き明かした力作。
▶A5判・370頁／定価8,925円 ISBN4-7842-0926-3

近世東アジア海域の文化交渉

松浦章著

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。
▶A5判・472頁／定価9,450円 ISBN978-4-7842-1538-6

京都町衆伊藤仁斎の思想形成

三宅正彦著

朱子学は幕藩国家の支配階級のみならず被支配階級とくに京都町衆にも浸透する。仁斎も熱烈な朱子学徒であったが、なぜ仁斎は朱子学を否定して独自の思想体系仁斎学に至ったか。その歴史的意義と思想的展開を、徹底した稿本研究を通し、京都町衆の存在形態と意識的特質の検証の中に探る。仁斎学の新たな地平をきり拓く労作。
▶A5判・378頁／定価6,090円 ISBN4-7842-0484-9